

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800246		
法人名	社会医療法人 正光会		
事業所名	グループホームさくら 2号館		
所在地	鳥根県益田市高津四丁目26番29号		
自己評価作成日	令和4年2月18日	評価結果市町村受理日	令和4年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

加齢に伴い心身の機能低下は進んでいるが、利用者・家族の思いに寄り添い、個別的な関りを行っている。利用者のできる部分に目を向け、ホームの一員として役割を持って生活して頂けるよう支援している。できることを一緒に実施することで、達成感や満足感に繋がっている。また母体が医療法人であり、常に医療と連携できる体制を整え、利用者・家族に安心していただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=32">2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=32</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	鳥根県松江白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年2月25日		

利用者の生活環境や習慣を理解し、心身の状態に合わせ利用者が役割をもって生活ができるようにみんなで検討し個別支援や自立支援に取り組んでいる。時季に合わせて行事を行い、文化祭では田植ばやしや石見神楽の映像に合わせて職員が躍り利用者に楽しんで貰った。コロナ禍前のような外出はむずかしい為、気分だけでも職員が提案し事業所の庭で茶話会、花見会、野菜作りや、法人の「さんさん牧場」でウサギや馬に触れ、外気浴をする等、外に出る機会をなるべく持つように工夫して支援している。保育園児のイベント訪問や看護学生の施設見学、医学生の研修受け入れを行い利用者の楽しみに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内に掲示し、常に職員が意識するよう努めている。スタッフ会議などで日々ケアを振り返り、理念に沿った実践に繋がっている。	スタッフ会議や日々支援の中で理念の意味を話し合い実践に繋げている。事業所の役割を確認し地域の人との交流を大切に、利用者の力を活かして継続した生活が送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧のやり取り、ゴミ出し、朝夕の挨拶など、地域の一員として交流している。	保育園児が散歩中に立ち寄りたり、ハロウィンのイベントの訪問で交流している。看護学生の施設見学や医学生の研修の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の状況に応じ、可能な範囲でボランティアや施設見学、中学生の職場体験などの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当者・家族・地域の方を交え、話し合いで出た意見はケアに取り入れている。新型コロナウイルス感染予防の対策として書面での報告、意見照会を行った(1月)	令和4年1月以外は会議を開催し、利用者の状態や取り組みを伝えて意見や助言を貰い運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じ、施設の様子や取り組みを伝えていくよう努めている。	主に運営推進会議で事業所の取り組みや状況を伝えている。手続きの相談をしたり暖房器具の取り扱いについて助言を受ける等協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会、施設内の勉強会には全員が参加し知識を深めている。危険防止の兼ね合いで悩む場面もあるが、スタッフ間でカンファレンスをもち、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内研修でコロナ感染防止の為にDVDが配布され全員が視聴した。事業所内では「拘束に関する概要や法的なものについて」「拘束をしない為にはどうするか」具体例を挙げて勉強会を行い理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種の研修会に参加し知識を深め、スタッフ間で共有している。声掛けの言葉にも気を付けるよう意識し、気になる時は伝え合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で知識を得るよう努めている。制度を活用する事例はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり時間をかけ、適宜理解度を確認しながら説明している。一方的なものにならないよう、家族の意見も聞くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やプランの説明、面会時等積極的に意見を伺うよう努め、またそれをスタッフ間で共有しケアや運営に反映させている。	コロナの為家族と会う機会は減ったが、電話や「さくらだより」で日頃の様子を伝え、運営推進会議や面会時等に意見を聞きサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務やスタッフ会議で意見を出し合い、法人とも連携し反映・改善に努めている。	職員から意見や相談があればその都度聞く機会を設け業務改善に反映させている。利用者の身体機能の低下から浴槽の出入りの危険性や不安があり浴槽を浅いものに交換したり補助具を整備した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間管理表により超過勤務の実態把握に努めている。また人事考課の面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人および地域の研修予定を掲示し、積極的な参加を呼び掛けている。新入職員についてはOJTを取り入れ、皆で支える姿勢がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍で交流会等の開催が控えられているが、可能な場合は参加し情報交換している。得た情報はスタッフ間で共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の過ごされている場で話を聞く機会を持ち、言葉に耳を傾けている。言語的に十分思いを伝えられない場合も、表情や仕草から思いを引き出すよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくり話を聞き、それまでの心配や苦勞されたことに共感的に接することで関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを尊重するよう努め、その上で法人のPSWや地域CMとも連携して支援の優先度を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての敬意を持って接するように心がけている。家事や作業では経験知を教えていただき、終了時は感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を適宜伝え、家族ならではの役割が果たせるよう働きかけている。またその後の本人の様子を伝え、家族の心の繋がりが保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で難しい面もあるが、可能な限り行きつけの美容室の利用や買い物などを行えるように工夫している。	コロナ感染状況を見て法人に確認し、家族や馴染みの人との面会を行い関係が途切れない支援に努めている。通所していたデイサービスにも引き続き通う等一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一緒にゆっくりできる場があり、場の共有ができています。その中で利用者同士の距離に注意し、トラブルの防止にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は生活状況を詳しく情報提供している。また家族とも連絡を取り、病状の把握に努めると共に、本人・家族の精神的苦痛を和らげる言葉かけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的な日課には沿うが、できるだけ本人のペースに合わせた生活ができるよう努めている。	表情やしぐさ、何気ない会話も意識して聞くように心掛けている。気分の落ち込みが見られた時はゆっくり話しをして関わり利用者に寄り添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により生活歴の把握に努めている。また担当スタッフが個別に得た情報もスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないことの状態や変化を細やかに観察し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察やコミュニケーションを通じ、本人の意向把握に努めている。家族からは、面会時や諸連絡の機会に意向を伺い、担当スタッフを中心に、本人家族の思いを踏まえた計画立案に努めている。	利用者のできることや希望、状態を把握し、家族と話し合い現状に即した介護計画を作成している。デイサービス、野菜作り、手作業等生活リズムや経過を記録し、気づきをケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別ファイルに生活リズム・パターンシート、経過記録を綴じ、誰でもいつでも記入・確認ができるようにしている。そこでの気づきをケアに反映するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化、身体機能の低下などにより、状況に応じた受診方法の検討、デイケアの利用などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域に出て行くことが難しいが、法人内の牧場・喫茶・売店などを活用し、気分転換や能力を発揮できるよう工夫している。保育園児の訪問があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医に継続して受診できるようにしている。家族の状況により受診の同行を行っている。入居時に緊急搬送先を確認し、希望に沿うようにしている。	利用者や家族の希望のかかりつけ医を継続し、法人内の病院や協力医と連携し適切な医療が受けられるように支援している。受診前後の状況を家族にわかりやすく伝え、家族から安堵の声がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が複数名配属されており、介護職と連携してケアを実施している。特に身体面の変調については、報告・受診の手配等を行っている。訪問診療時には情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供している。また、地域連携室とも連携して、退院後を見据え、家族とも意向確認を含め連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の変化を適宜伝え、その中から重度化（終末期）への思いを把握している。医師・家族との話し合いの場を持ち、施設内でできること・できないことを伝えながら、家族支援に取り組んでいる。	事業所としての方針はあるが、状況変化に合わせて家族、医師と話し合い、随時家族の意向を確認しながら希望に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の訓練に参加し、知識・実践力を高めるよう努めている。夜間急変時には病院管理当直へのコール体制がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行い、1回は消防署員の指導を受けけている。その際消火器使用訓練も実施している。災害時には法人内施設との応援体制を整えている。	法人との協力体制を築いている。夜間想定で初期消火、通報、避難訓練を利用者も参加し実施している。消防署員から厨房内の消火器設置場所等の助言を受け改善に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しさの中にも敬意を持った声掛けをするよう心がけている。ケア時は周囲に配慮し、プライバシーを確保して対応している。	援助が必要な時も本人の気持ちを大切に 見守り、さりげないケアや敬意ある言葉づかいを心掛けている。活動への参加も利用者の思いを尊重し、無理強いせず様子を見て声を掛け支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアや活動への参加は、本人に確認している。十分意思表示できない場合も、その機会は保つよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人のペースを大切に過ごしていただいている。レクリエーション活動等への参加は、無理強いしないようにしている、		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・髭剃りなどを、本人の能力に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	心身の機能的に調理は難しいが、盛り付けや片付けを個々の能力に合わせ、共に実施している。イベント時の行事食やお菓子作りを取り入れている。	利用者が育てた野菜を食材に使ったり下ごしらえや盛り付け等利用者の力を活かせるように一緒にしている。行事に合わせ器や盛り付けも工夫し「綺麗な。美味しい」と喜んで貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズム・パターンシートを用い、食事・水分摂取量を把握している。食べやすい形態・食器類の工夫をしている。栄養士による栄養管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の能力に応じた口腔ケアを実施しまた口腔内の状態を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズム・パターンシートを用い、排泄の誘導を行い、なるべくトイレ排泄ができるよう支援している。失敗時は、自尊心に配慮し速やかに交換するよう心がけている。	訴えのない利用者にも時間を見て声を掛けトイレで排泄ができるように支援している。利用者に合わせオムツやパットを検討し快適に過ごせるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、水分や食事摂取の支援、緩下剤・下剤の使用を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やペースに合わせて実施している。準備を一緒にするなど個々に合わせた対応を行っている。身体機能に応じ、介助浴槽と個浴を使い分けている。	出入りが楽にできる浴槽に交換し補助具の整備をした。希望に合わせて同性介助や好みの入浴剤を利用したり、一人でゆっくり浸かれるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝は基本的に本人のペースに合わせている。日中も本人の体調に合わせて、休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬剤は、薬剤名・効能をファイリングし確認できるようにしている。変更時は情報を共有し、副作用等の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業等、能力に合わせて役割を担っていただいている。手作業など本人の好きなことを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	身体機能・歩行機能の低下が進み、コロナ禍もあって希望通りには難しいが、散歩・ドライブ・日光浴・庭でのお茶会等を企画し実施している。	コロナ禍で希望の外出には制限があるが、庭でひなたぼっこや散歩、手作り弁当を食べながら花見会をして外気に触れている。法人の「さんさん牧場」や喫茶店、売店に立ち寄っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金の所持はしていないが、外出時など能力に応じて支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話介助、取り継ぎを実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度の調整、換気に配慮している。季節の花や、利用者と共に作成した壁絵を飾り、季節感を演出している。	利用者の手作りカレンダーや壁画、花を飾り季節感や生活感のある環境を作り好きな所で過ごせるようにソファを設置している。利用者の力を活かし職員と一緒に掃除機かけや手すりを拭く人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の席がだいたい決まっており、「いつもの席」に座っていただいている。利用者同士の関係性に配慮し席の工夫をしている。またソファを置き、一人で過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を使用し、時計や写真など見慣れたものを配置して、安心して過ごせるよう工夫している。	アルバムや時計、ぬいぐるみ、寝具類等利用者に必要な物を持って来て貰っている。立ち上がりや入り口までの移動がスムーズに行えるようにベッドの配置の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に合わせたベッド、家具の配置をしている。場所の認識ができるよう、トイレは大きな文字で表示するなど工夫がされている。		